

## 英検合格は未来を拓(ひら)く

- 1学年で1つの級に合格することを目指そう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに - 「英検」と「コンピュータ」、「自分の専門領域(得意分野)」は、これから生きる上で必要不可欠な道具 -

(1) 今の世の中には、次の3つの特長があります。

「知識基盤社会(知識が基盤となった社会)」

「世界との交流が進んだ社会(グローバル化された社会)」

「超高齢化社会(自分自身で健康管理ができれば、100歳以上まで生きる可能性が高まった社会)」

(2) この ~ が特長となっている社会で活動するためには、「英語」と「コンピュータ」を自由自在に使いこなせた上で、1つでもよいから自分の得意分野を持ち、専門領域とすることが必要不可欠と私は考えます。このことをはっきり認識した上で毎日の勉強に励んで頂きたいと、心から希望します。

(3) 先日、韓国の学院(日本の学習塾・予備校にあたるもの)を訪問し、驚きました。中学生の英語は「トイック」という実務英語の試験、高校生の英語は「トーフル」という米国にある大学留学のための試験で、高い点数を取るための勉強をしていたからです。

(4) シンガポールの中学生や高校生は、家ではマレー語や中国語を使いますが、学校ではすべての科目で英語による授業を受けています。中国やベトナムでは、小学生から、すべて英語で行う英語の授業を受けています。インドの公共語は英語ですので、小学校からすべて英語で授業を受けています。ヨーロッパもEUの共通語が英語になりましたので、小学校低学年から徹底的な英語教育がスタートし、中学生や高校生で英語の話せない生徒はあまり見られなくなりました。

(5) 昨年と一昨年に私が訪問したフィンランドのヘルシンキ市とタンペン市の中学生・高校生は、私たち外国からの訪問者に、自分の学校をすべて英語で2~3時間案内し、ディスカッション(議論)にもすべて英語で参加しました。

(6) 「何のために英語を学ぶのかわからない」「だから英語を勉強しても仕方がない」と考えるのは、もしかしたら、世界中で、日本の小学生、中学生、高校生だけかもしれません。英語がきちんと身に付いていないと、英語の新聞も読めず、英語のラジオ番組やTV番組も視聴できず、インターネットからの英語の情報も判読できません。もちろん、相手の言うこともわからず、学校などで英語で授業を受けてもさっぱりわかりません。簡単なあいさつはできても、学年相応の議論に参加することはできません。英語で手紙も書けず、少し込み入った内容を e-mail することもできません。読んでわからないことは、聴いてもわからないのが普通ですから、あいさつやたわいのない話以外は、何を聴いても全くわからない状況が続きます。

(7) 言いにくいことですが、日本以外の国々では「英語」と「コンピュータ」が自由に使えれば選べる職業は多く、この2つが自由に使えなければ選べる職業は少ないと考えられています。その結果、得られる収入も随分異なるのはまぎれもない事実です。普通は、これに「専門領域」が加わります。現代は非常に高度化した知識社会ですので、「英語」と「コンピュータ」が使いこなせた上に「専門領域」を持たない人は、ある一定の職業には就けないことが外国では多いと言われています。外国では、そのことが誰にでもわかっていますから、少なくとも高校卒業までに英語を完璧に身に付けて、つまり英語の新聞は本国語の新聞と同じスピードで読めるくらいにまでして、大学や大学院、専門学校、専修学校に進学するのが普通です。

(8) 社会の進歩が早いため、大学などを出ても不足する知識や技術がどんどん出てきます。そのため、日本以外の国では、そのたびごとに大学や大学院、専門学校などに入り直すのが普通です。日本でもようやくスタートしつつある「専門職大学院」などは、諸外国では既に当たり前のように行われています。日本は、この分野で10～20年くらい遅れていると言えます。

## 2. 「英検」合格のための学習で、「英語力」と「入試合格」を

(1) それにつけても大切なのは、「英語」です。開倫塾でできることは、「学校の英語の勉強の補習」と「高校入試・大学入試などの受験合格のための英語」、それに「実用英語検定試験合格のための英語」の指導であります。この3つは、1979年の開倫塾創業以来めんめんと行っており、自信がありますので、ぜひ開倫塾で「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらいの熱心さ)」に英語を勉強して下さい。

特に「英検」は、真正面から取り組みれば、韓国やシンガポール、中国、インド、ヨーロッパの人々に負けないだけの「英語力」が身に付きます。

(2) 開倫塾では、1年間英語を勉強した人は英検5級を、2年間勉強した人は英検4級を、3年間勉強した人は英検3級を、4年間勉強した人は英検準2級を、5年間勉強した人は英検2級を取得することを目標に、英検指導のプログラムを組んでおります。

### 英検合格の目安(目標・時期)

英検5級 (中1修了程度)	小5の4月から勉強した人は 小6の4月から勉強した人は 中1の4月から勉強した人は	小5の1月に英検5級合格 小6の1月に英検5級合格 中1の1月に英検5級合格
英検4級 (中2修了程度)	小5から勉強した人は 小6から勉強した人は 中1から勉強した人は	小6の1月に英検4級合格 中1の1月に英検4級合格 中2の1月に英検4級合格
英検3級 (中3修了程度)	小5から勉強した人は 小6から勉強した人は 中1から勉強した人は	中1の1月に英検3級合格 中2の1月に英検3級合格 中3の10月に英検3級合格
英検準2級 (高1・2修了程度)	小5から勉強した人は 小6から勉強した人は 中1から勉強した人は	中2の1月に英検準2級合格 中3の1月に英検準2級合格 高1の1月に英検準2級合格
英検2級 (高校修了程度)	小5から勉強した人は 小6から勉強した人は 中1から勉強した人は	中3の1月に英検2級合格 高1の1月に英検2級合格 高2の1月に英検2級合格

(3) 英検の各級にただ合格するのではなく、その級に出題されるべき内容を十分に「理解」した上で、「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」などを十分に行って正確に「定着」させ、過去問や予想問題で十分に「応用力」を養った上で合格することが、英検を通じて英語の実力を確実に身に付けるために大切なことです。

(4) 2級合格後は、日本語の新聞を一面から毎日1時間なめるように読み、内容のよくわかった記事だけでよいので、それを英字新聞で毎日1時間辞書を一切引かずに読む訓練を高校卒業までし続けければ、諸外国の高校卒業生に負けないだけの「英語力」が身に付きます。これに加えて、センター試験の過去問演習を行えば、センター試験で200点満点中180点を取れる可能性が飛躍的に高まります。

- (5) 大学受験との関連で言えば、中3や高1で英検2級の合格を果たしていれば、英語は既に大学入試でも超得意科目となっていますので、他の科目、例えば数学や理系科目をじっくりと勉強できます。
- (6) 医学部や歯学部、理工学部に進学するためには、数学や理科に多くの学習時間をかける必要がありますので、英語だけは英検を早目に取得して「ゆとり」を作っておくことが非常に効果的です。
- (7) 文科系の学部に進学する場合は、英語は必修ですので、どんなに勉強してもし過ぎることはありません。
- (8) 高校入試ならなおさら、早目早目の英検取得による英語力の養成は、受験に役立ちます。  
中学2年生あるいは中学3年生の1学期までに英検3級に合格するということは、その時期までに中学修了程度の英語力を身に付けたことを意味しますので、中学3年生の夏休みからの本格的な高校入試の受験勉強に「ゆとり」が生まれます。  
英検3級合格後は、英検準2級の勉強をスタートしますので、高校入試の問題はどんどん解けるようになります。(2学年先までの学力が身に付いているので当然と言えます。)

### 3. おわりに - 英語学習の基本は、「音読練習」と「書き取り練習」 -

- (1) 「練習、練習、また練習」。これは、2003年度のOECD(経済協力開発機構)のPIISA(15歳時国際標準学力テスト)で世界一の学力になったフィンランドを2005年・2006年と2度訪問し、なぜ学力世界一になったのかを調査してわかったことです。「うんなるほど」と「よくわかったこと」、つまり「理解」したことを「練習、練習、また練習」で十分身に付ける、つまり「定着」した上で、創造力を発揮して実際に使ってみる。つまり「応用」する。この「力」がフィンランドを「世界一の学力の国」に押し上げたと私は考えます。「一人のおちこぼれも作らない」との方針のもとに、学習塾でやっているような個人別の指導や授業時間以外の補習もとても盛んでした。
- (2) どこの国でも、英語学習の基本は「音読練習」と「書き取り練習」です。その上で、機会を見つけてどんどん使ってみること。毎年、1つの級ずつ「英検」を取得し続けること。高校生のうちに「英検2級」に合格して、英字新聞を読めるまでにして高校を卒業すること。  
自分の歩みたい人生のためにさらに勉強を重ねることが、「よく生きる」ためには大切なのではないかと思います。  
英検と真正面から取り組むことで、開倫塾の塾生の皆様が多様な「選択肢の多い人生」を送るきっかけになればと心から希望します。  
皆様は、どのようにお考えでしょうか。